

令和5年度 歯科疾患の医療費及び受診状況
—う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害—

令和7年7月
健康保険組合連合会
政策部 調査分析グループ

【調査の概要】

本調査は、1,310組合提供の「医科」・「歯科」の電算処理レセプトデータをもとに、令和5年度における歯科疾患（①う蝕、②歯肉炎・歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害）の医療費及び受診状況についてとりまとめたものです。

【調査結果のポイント】

1. 疾病分類別にみた歯科医療費

1) 歯科（消化器系疾患）計

- 医科と歯科を合わせた、疾病分類別医療費（計3兆7,094億円）の構成割合をみると、歯科（消化器系疾患）は全体の15.5%（5,735億円）と最も高い。
- 加入者1人当たり医療費は2万1,138円で、医療費3要素分解をみると、▽受診率（千人当たり件数）：1,7750、▽1件当たり日数：1.5日、▽1日当たり医療費：8,176円—となっている。

2) 歯科3疾患

- 歯科（消化器系疾患）疾患別医療費（計5,735億円）の構成割合をみると、歯肉炎・歯周疾患が全体の84.2%（4,831億円）と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：7.7%（443億円）、う蝕：7.6%（436億円）。
- 加入者1人当たり医療費は、▽歯肉炎・歯周疾患：1万7,807円、▽歯及び歯の支持組織の障害：1,631円、▽う蝕：1,608円—となっている。

2. 疾病分類別にみた歯科受診状況（年度平均）

1) 歯科（消化器系疾患）計

- 医科と歯科を合わせた、疾病分類別推計受診者数（計1,857万人）の構成割合をみると、歯科（消化器系疾患）は全体の21.5%（399万人）と最も高く、加入者1,000人当たり受診者数は147.0人となっている。

2) 歯科3疾患

- 歯科（消化器系疾患）疾患別推計受診者数（計399万人）の構成割合をみると、歯肉炎・歯周疾患が85.1%（339万人）と最も高く、次いで、う蝕：8.5%（34万人）、歯及び歯の支持組織の障害5.8%（23万人）。
- 加入者1,000人当たり受診者数は、▽歯肉炎・歯周疾患：125.1人、②う蝕：12.7人、③歯及び歯の支持組織の障害：8.6人—となっている。

本調査における留意点及び用語の定義

1. 統計上の歯科疾患及び疾病分類別医療費の取り扱い

- 調査対象の疾患は、診療区分「歯科」の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」及び「歯科 3 疾患」（①う蝕、②歯肉炎及び歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害）としている。
- 「歯科」の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」のみを対象としているのは、疾病 19 分類別医療費のうち、「消化器系疾患」の医療費が全体の 97.4%を占め、かつ、①う蝕、②歯肉炎及び歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害—の歯科主要 3 疾患が計上されていることによる。表記については、便宜上、「歯科：消化器系疾患」とした。
- なお、「歯科：消化器系疾患」の医療費構成割合は、▽う蝕：8.0%、▽歯肉炎及び歯周疾患：83.7%、▽歯及び歯の支持組織の障害：7.8%、▽その他：0.4%—となっており、主要 3 疾患で 99.6%を占める。
- 疾病分類別医療費等の集計方法については、公的 disease 統計と同様、レセプトに記載された 1 ないし複数の傷病名のうち、主傷病となる代表疾病に基づく 1 レセプト 1 傷病名により医療費等を集計している。なお、医療費には薬剤費は含まれていない。

2. 調査対象 1,310 組合の医療費データ及び加入者数

- 1,310 組合の「医科」及び「歯科」の電算処理レセプトデータを集計対象とした。
- また、対前年度比伸び率の算出にあたっては、1,310 組合のうち、データ提供のあった令和 5 年度と 4 年度同一の 1,294 組合を集計対象としている。

令和 5 年度医療費：1,310 組合

	レセプト件数 (件)	医療費総額 (円)
医科	183,669,434	3,293,180,590,910
歯科：消化器系疾患	48,156,955	573,479,829,520

令和 5 年度 加入者数 (年度平均)：1,310 組合

	加入者数 (人)
合計	27,130,518
本人	16,210,403
家族	10,920,207

※ 被保険者数は、「合計」及び「男性」・「女性」の各加入者数を月平均により算出しているため、「男性」・「女性」の計が加入者「合計」とは一致しない。

対前年度比伸び率：1,294 組合（令和 5 年度及び 4 年度同一組合）

	レセプト件数（件）		医療費総額（円）	
	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
医科	181,779,652	169,692,748	3,259,362,590,030	3,127,870,895,090
歯科：消化器系疾患	47,651,754	45,956,309	567,610,122,320	548,785,718,720

加入者数（年度平均）：1,294 組合（令和 5 年度及び 4 年度同一組合）

	加入者数（人）	
	令和 5 年度	令和 4 年度
合計	26,860,579	27,013,491
本人	16,060,807	15,914,270
家族	10,799,867	11,099,294

4. 用語の定義

① 加入者 1 人当たり医療費

当該年度の医療費を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したもの）で除したもの。

② 受診率（1,000 人当たりレセプト件数）

当該年度のレセプト件数を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したもの）で除し 1,000 倍したもの。

③ レセプト 1 件当たり日数

当該年度の診療実日数をレセプト件数で除したもの。

④ 1 日当たり医療費

当該年度の医療費を診療実日数で除したもの。

⑤ 加入者 1 人当たり医療費と医療費 3 要素分解

加入者 1 人当たり医療費は、受診率、1 件当たり日数、1 日当たり医療費の積に分解することができる。

（※加入者 1 人当たり医療費＝受診率×1 件当たり日数×1 日当たり医療費）

⑥ 推計受診者数（年度平均）

当該年度の各月の受診者数の和を 12 で除したものの。これは、組合提供の月別の医療費データは集計値であり、当該年度の集計にあたっては、各月の受診者数を累計した値を 12 で除した推計値を用いている。

⑦ 加入者 1,000 人当たり受診者数

当該年度の平均受診者数を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したもの）で除し 1,000 倍したものの。

⑧ 受診者 1 人当たり医療費

当該年度の医療費を、当該年度の平均受診者数で除したものの。

なお、上記①の加入者 1 人当たり医療費は、加入者 1 人当たり受診者数、受診者 1 人当たり医療費に分解することができる。

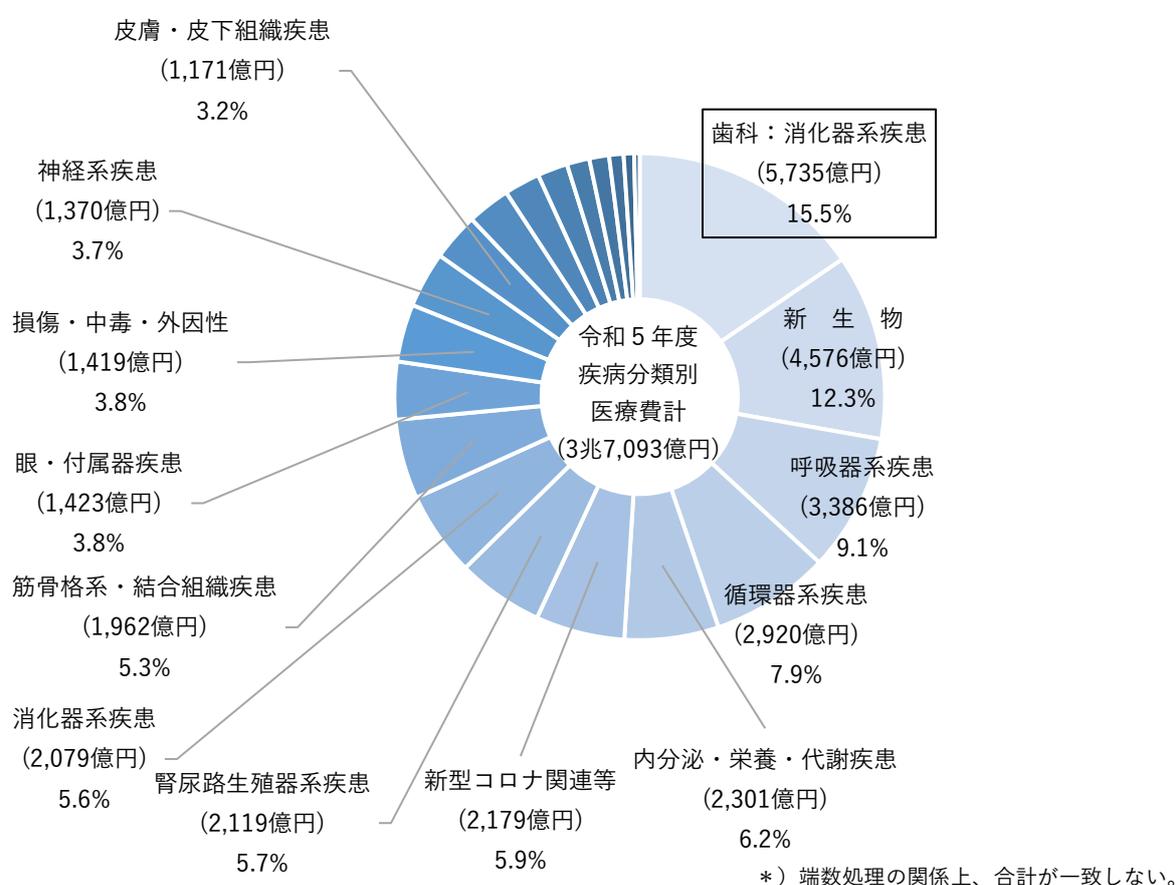
（※加入者 1 人当たり医療費＝加入者 1 人当たり受診者数×受診者 1 人当たり医療費）

1. 疾病 19 分類別にみた「歯科：消化器系疾患」医療費

(1) 医療費及び医療費構成割合

- 疾病分類別医療費（医科・歯科¹計）の構成割合をみると、「歯科：消化器系疾患」は 15.5%（5,735 億円）と最も大きく、次いで、新生物：12.3%（4,576 億円）、呼吸器系疾患：9.1%（3,386 億円）となっている。
- なお、対前年度比伸び率（参考数値）は、医科・歯科計：4.1%、「歯科：消化器系疾患」：3.4%の増加となっている。

令和 5 年度 疾病分類別 医療費（医科・歯科計）



【参考】対前年度比伸び率：1,294 組合ベース

	伸び率
疾病分類別医療費（医科・歯科計）	4.1%
歯科：消化器系疾患	3.4%

¹ 本調査における文中及び表中の「歯科」は、＜歯科＞の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」を指している（詳細は p.2「本調査における留意点及び用語の定義」1.を参照）。

【参考】疾病分類別医療費構成割合（%）：前年度調査との比較

疾病分類名	令和5年度 (1,310 組合)	(参考) 4年度調査 (1,310 組合)
歯科：消化器系疾患	15.5	15.5
新生物	12.3	12.3
新型コロナ関連等	9.1	8.6
循環器系疾患	7.9	7.8
呼吸器系疾患	6.2	7.0
内分泌・栄養・代謝疾患	5.9	6.3
腎尿路生殖器系疾患	5.7	5.7
消化器系疾患	5.6	5.6
筋骨格系・結合組織疾患	5.3	5.3
眼・付属器疾患	3.8	3.8
損傷・中毒・外因性	3.8	3.7
神経系疾患	3.7	3.4
皮膚・皮下組織疾患	3.2	3.1
精神・行動障害	2.8	2.8
その他	2.4	2.4
感染症・寄生虫症	2.0	1.9
血液・造血器・免疫障害	1.5	1.4
妊娠・分娩・産じょく	1.3	1.4
耳・乳様突起疾患	1.0	0.9
先天奇形変形・染色体異常	0.7	0.7
周産期発生病態	0.4	0.4

注) 円グラフ (p.5) 及び表中の「その他」は、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「不詳」である。

(2) 加入者1人当たり医療費及び医療費3要素

- 疾病分類別にみると、「歯科：消化器系疾患」が2万1,138円と最も高く、次いで、新生物：1万6,867円、新型コロナ関連：8,032円となっている。
- 加入者1人当たり医療費が高い要因について、医療費3要素分解からみると、▽受診率：1,775.0、▽1件当たり日数：1.5日、▽1日当たり医療費：8,176円となっており、他の疾患に比べ、受診率が極めて高いことがわかる。
- なお、対前年度比伸び率（参考数値）をみると、「歯科：消化器系疾患」は3.4%の増加となっており、要因として、▽1件当たり日数は▲2.0%減少したが、▽受診率：4.3%、▽1人当たり医療費：4.0%、▽1日当たり医療費：1.9%—とそれぞれ増加した。

令和5年度 疾病分類別 加入者1人当たり医療費（円）



注) 疾病分類には、便宜上、「その他」（「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「不詳」）を除いている（以下、同じ）。

令和5年度 加入者1人当たり医療費及び3要素

疾病分類名	加入者1人当たり 医療費 (円)	受診率 (件/千人)	1件当たり 日数 (日)	1日当たり 医療費 (円)
歯科：消化器系疾患	21,138	1,775.0	1.5	8,176
感染症・寄生虫症	2,730	235.1	1.5	7,900
新生物	16,867	247.2	1.7	40,640
血液・造血器・免疫障害	2,038	29.4	1.6	42,226
内分泌・栄養・代謝疾患	8,483	554.3	1.2	12,828
精神・行動障害	3,894	323.1	1.6	7,790
神経系疾患	5,048	234.3	1.4	14,998
眼・付属器疾患	5,246	584.0	1.1	7,919
耳・乳様突起疾患	1,299	125.9	1.4	7,318
循環器系疾患	10,763	431.1	1.3	19,350
呼吸器系疾患	12,482	1,283.9	1.3	7,362
消化器系疾患	7,662	301.3	1.4	18,485
皮膚・皮下組織疾患	4,317	679.3	1.2	5,190
筋骨格系・結合組織疾患	7,232	385.8	2.1	9,104
腎尿路生殖器系疾患	7,810	263.8	1.7	17,129
妊娠・分娩・産じょく	1,783	18.3	3.1	30,987
周産期発生病態	490	2.1	4.2	56,527
先天奇形変形・染色体異常	944	13.2	1.5	46,624
損傷・中毒・外因性	5,231	198.1	2.1	12,817
新型コロナ関連等	8,032	485.4	1.4	12,288

【参考】令和5年度 対前年度比伸び率（%）：1,294 組合ベース

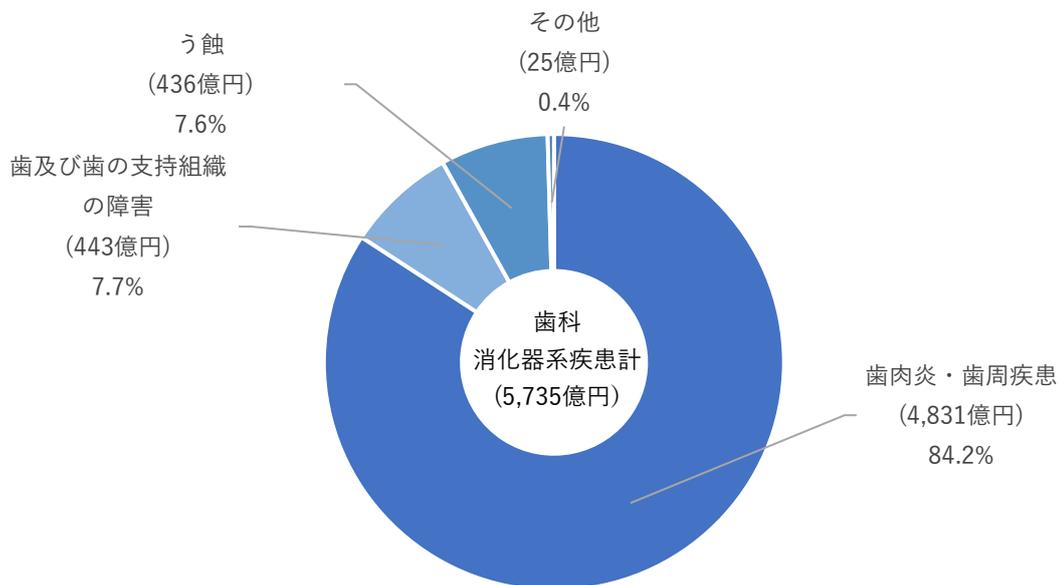
疾病分類名	加入者1人当たり 医療費	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費
歯科：消化器系疾患	4.0	4.3	▲2.0	1.9
感染症・寄生虫症	8.1	8.9	▲1.3	0.7
新生物	5.0	3.0	▲1.2	3.3
血液・造血器・免疫障害	8.8	4.2	▲0.6	4.9
内分泌・栄養・代謝疾患	3.6	2.1	0.0	1.3
精神・行動障害	5.7	3.9	▲0.6	2.2
神経系疾患	13.3	6.4	▲0.7	7.6
眼・付属器疾患	4.1	1.3	0.0	2.7
耳・乳様突起疾患	11.7	9.3	1.4	0.5
循環器系疾患	5.0	▲0.1	0.8	4.5
呼吸器系疾患	35.5	40.0	0.0	▲3.2
消化器系疾患	4.6	▲0.1	0.0	4.7
皮膚・皮下組織疾患	6.8	2.6	▲0.8	4.1
筋骨格系・結合組織疾患	5.1	0.5	▲0.5	5.1
腎尿路生殖器系疾患	4.6	4.5	▲2.8	3.2
妊娠・分娩・産じょく	0.8	▲4.6	1.0	4.4
周産期発生病態	▲1.8	▲6.9	3.2	2.0
先天奇形変形・染色体異常	4.4	▲2.1	0.7	6.1
損傷・中毒・外因性	6.7	2.5	0.0	4.3
新型コロナ関連等	▲28.6	▲2.1	▲6.3	▲21.8

2. 歯科3疾患（う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害）の医療費

（1）医療費及び医療費構成割合

- 「歯科：消化器系疾患」の疾患別医療費構成割合をみると、歯肉炎及び歯周疾患が84.2%（4,831億円）と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：7.7%（443億円）、う蝕：7.6%（436億円）—となっている。
- 対前年度比伸び率（参考数値）をみると、歯肉炎・歯周疾患が4.0%と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：2.2%、う蝕：▲1.5%—となっている。

令和5年度 歯科：消化器系疾患別 医療費及び構成割合



*) 端数処理の関係上、合計が一致しない。

令和5年度 医療費及び構成割合

	医療費 (円)	構成割合 (%)
歯科：消化器系疾患	573,479,829,520	100.0
う蝕	43,629,553,670	7.6
歯肉炎及び歯周疾患	483,126,003,190	84.2
歯及び歯の支持組織の障害	44,256,939,950	7.7

【参考】令和5年度 対前年度比伸び率：1,294 組合ベース

	伸び率
歯科：消化器系疾患	3.4%
う蝕	▲1.5%
歯肉炎・歯周疾患	4.0%
歯及び歯の支持組織の障害	2.2%

(2) 加入者1人当たり医療費及び3要素

- 歯科3疾患のうち、加入者1人当たり医療費が最も高いのは、歯肉炎・歯周疾患の1万7,807円で、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：1,631円、う蝕：1,608円—となっている。
- 歯肉炎・歯周疾患の加入者1人当たり医療費が高い要因について、医療費3要素分解からみると、受診率（千人当たり件数）：1,510.0、1件当たり日数：1.4日、1日当たり医療費：8,190円となっており、他の疾患に比べ受診率が極めて高くなっている。

令和5年度 加入者1人当たり医療費及び3要素

	加入者1人当たり 医療費(円)	受診率 (件/千人)	1件当たり 日数(日)	1日当たり 医療費(円)
う蝕	1,608	152.5	1.4	7,646
歯肉炎・歯周疾患	17,807	1510.0	1.4	8,190
歯及び歯の支持組織の障害	1,631	104.8	1.8	8,583

(3) 加入者1人当たり医療費及び3要素の対前年度比伸び率

- 歯肉炎・歯周疾患が4.6%の増加と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：2.7%、う蝕：▲0.9%—となっている。
- 歯肉炎・歯周疾患の伸びの要因として、1件当たり日数が▲2.0%減少した一方、受診率が5.1%と大きく増加したほか、1日当たり医療費が1.9%増加した。

令和5年度 対前年度伸び率 (%)：1,294 組合ベース

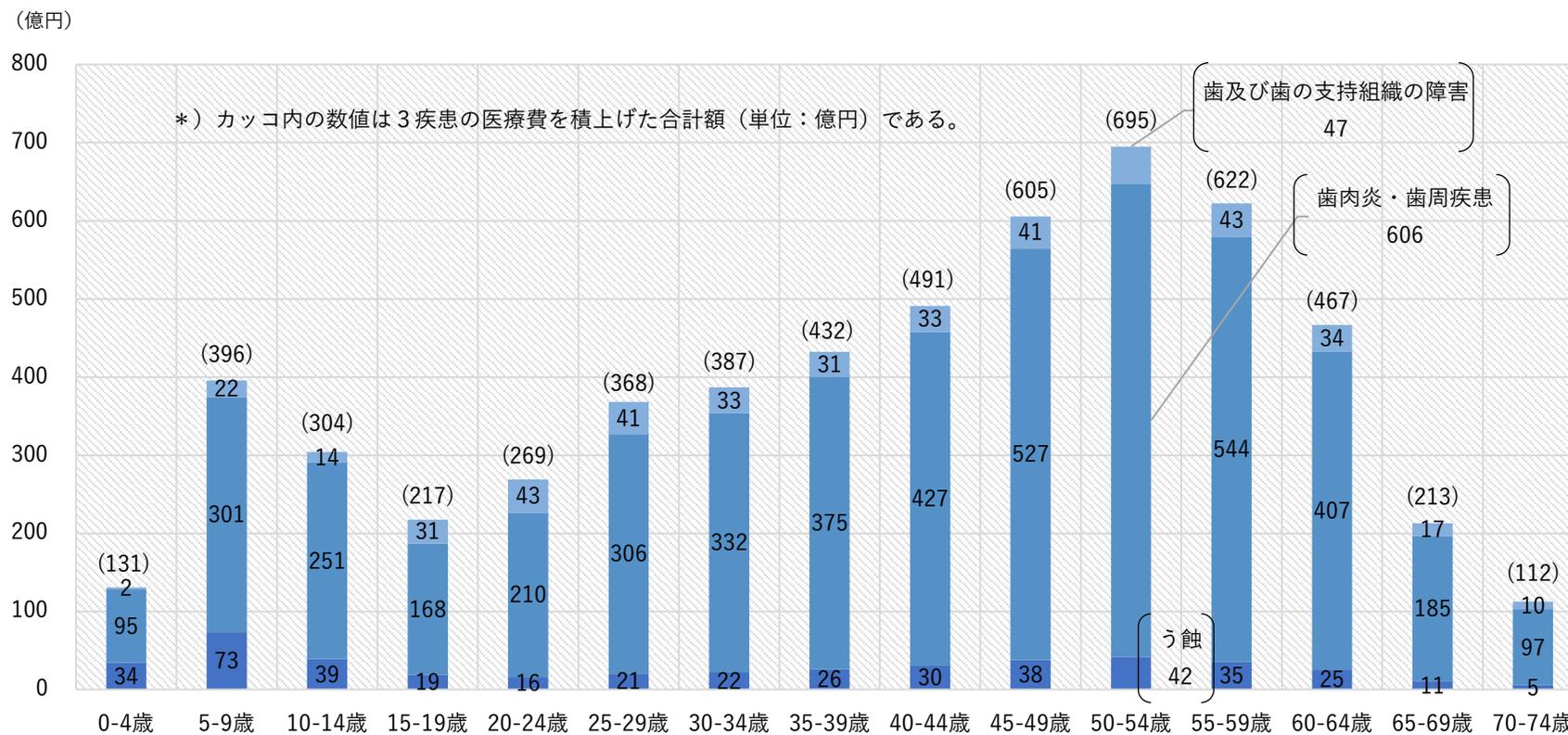
	加入者1人当たり 医療費	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費
う蝕	▲0.9	▲0.9	▲0.7	0.7
歯肉炎・歯周疾患	4.6	5.1	▲2.0	1.9
歯及び歯の支持組織の障害	2.7	1.0	▲2.2	3.6

(4) 年齢階層別にみた歯科3疾患医療費

1) 医療費総額

- 年齢階層別に歯科3疾患計の医療費をみると、50-54歳（695億円）が最も高く、次いで、55-59歳（622億円）、45-49歳（605億円）一となっている。
- 総額が最も高い50-54歳の構成をみると、歯肉炎及び歯周疾患が606億円と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：47億円、う蝕：42億円一となっている。

令和5年度 歯科3疾患 年齢階層別 医療費総額（単位：億円）

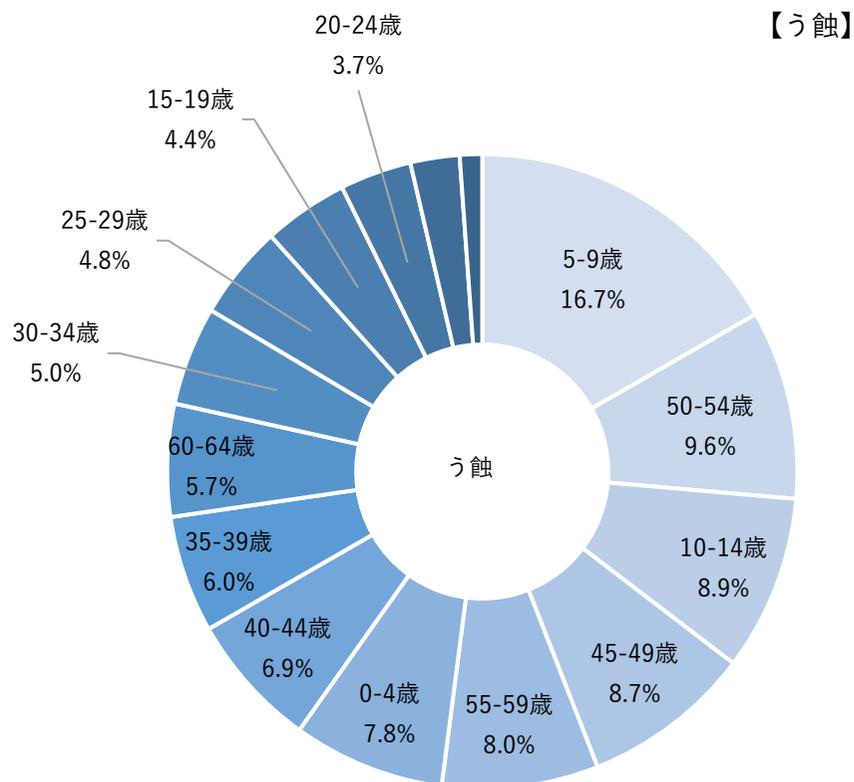


2) 医療費構成割合

① う蝕

- 医療費構成割合を年齢階層別にみると、5-9歳が16.7%と最も高く、次いで、50-54歳：9.6%、10-14歳：8.9%、45-49歳：8.7%となっており、乳幼児及び未就学児（0-14歳）で全体の33.5%を占める。

令和5年度 年齢階層別 医療費及び構成割合



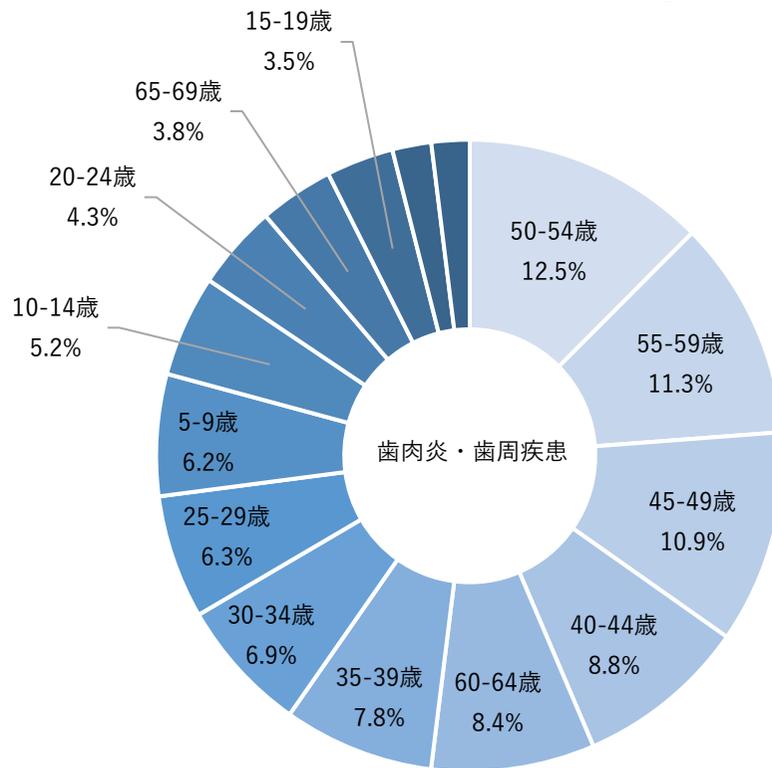
	医療費総額 (円)	構成割合 (%)
0-4歳	3,404,970,380	7.8
5-9歳	7,327,158,280	16.8
10-14歳	3,900,018,190	8.9
15-19歳	1,889,178,980	4.3
20-24歳	1,600,538,830	3.7
25-29歳	2,050,387,390	4.7
30-34歳	2,210,689,390	5.1
35-39歳	2,582,788,240	5.9
40-44歳	3,024,501,130	6.9
45-49歳	3,792,591,020	8.7
50-54歳	4,171,845,830	9.6
55-59歳	3,523,359,470	8.1
60-64歳	2,527,331,390	5.8
65-69歳	1,083,190,180	2.5
70-74歳	537,843,100	1.2
計	43,626,391,800	100.0

*) 端数処理の関係上、合計が一致しない (以下、同じ)。

② 歯肉炎・歯周疾患

- 医療費構成割合を年齢階層別にみると、50-54歳が12.5%と最も高く、次いで、55-59歳：11.3%、45-49歳：10.9%—となっており、40-59歳の層で全体の43.5%を占める。

令和5年度 年齢階層別 医療費及び構成割合
【歯肉炎及び歯周疾患】

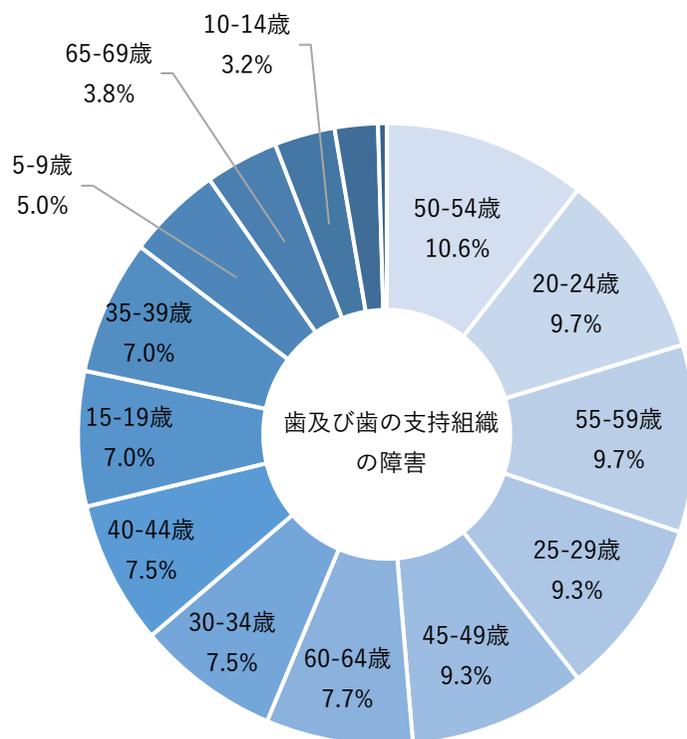


	医療費総額 (円)	構成割合 (%)
0-4歳	9,466,216,300	2.0
5-9歳	30,062,628,970	6.2
10-14歳	25,111,805,760	5.2
15-19歳	16,801,257,710	3.5
20-24歳	21,015,983,940	4.4
25-29歳	30,625,253,040	6.3
30-34歳	33,158,656,270	6.9
35-39歳	37,492,634,240	7.8
40-44歳	42,736,024,360	8.8
45-49歳	52,656,926,650	10.9
50-54歳	60,580,799,250	12.5
55-59歳	54,368,790,790	11.3
60-64歳	40,705,593,940	8.4
65-69歳	18,539,917,280	3.8
70-74歳	9,747,527,750	2.0
計	483,070,016,250	100.0

③ 歯及び歯の支持組織の障害

- 医療費構成割合を年齢階層別にみると、50-54歳が10.6%と最も高く、次いで、20-24歳：9.7%、55-59歳：9.7%—となっており、40-50歳台で全体の37.3%を占める。また、20歳台及び30歳台も比較的高く、20-30歳台では全体の33.6%を占めている。

令和5年度 年齢階層別 医療費及び構成割合
【歯及び歯の支持組織の障害】

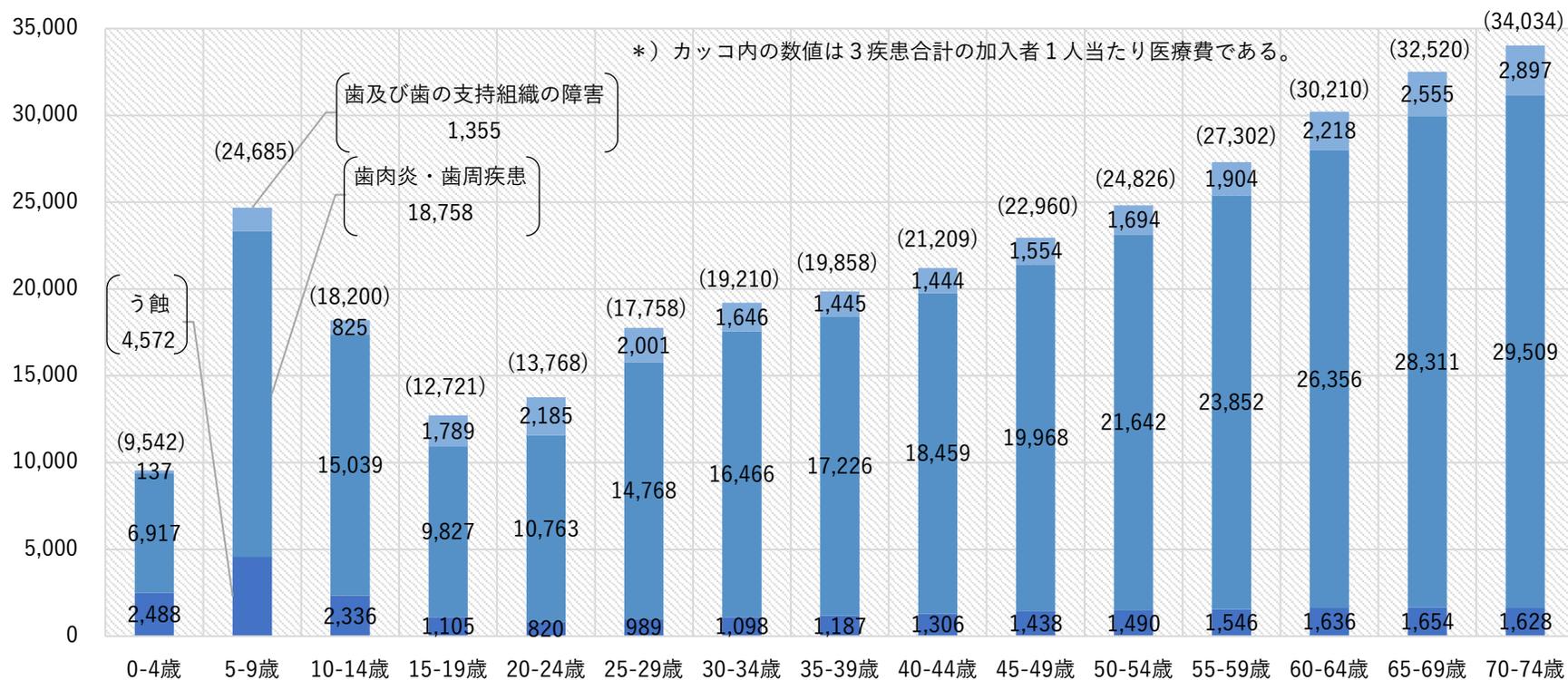


	医療費総額 (円)	構成割合 (%)
0-4歳	186,968,750	0.4
5-9歳	2,171,683,560	4.9
10-14歳	1,377,553,470	3.1
15-19歳	3,059,186,070	6.9
20-24歳	4,266,484,360	9.6
25-29歳	4,148,673,720	9.4
30-34歳	3,314,629,870	7.5
35-39歳	3,145,903,510	7.1
40-44歳	3,342,072,470	7.6
45-49歳	4,097,776,310	9.3
50-54歳	4,742,428,070	10.7
55-59歳	4,341,030,700	9.8
60-64歳	3,425,546,660	7.7
65-69歳	1,673,514,510	3.8
70-74歳	956,964,980	2.2
計	44,250,417,010	100.0

3) 加入者1人当たり医療費

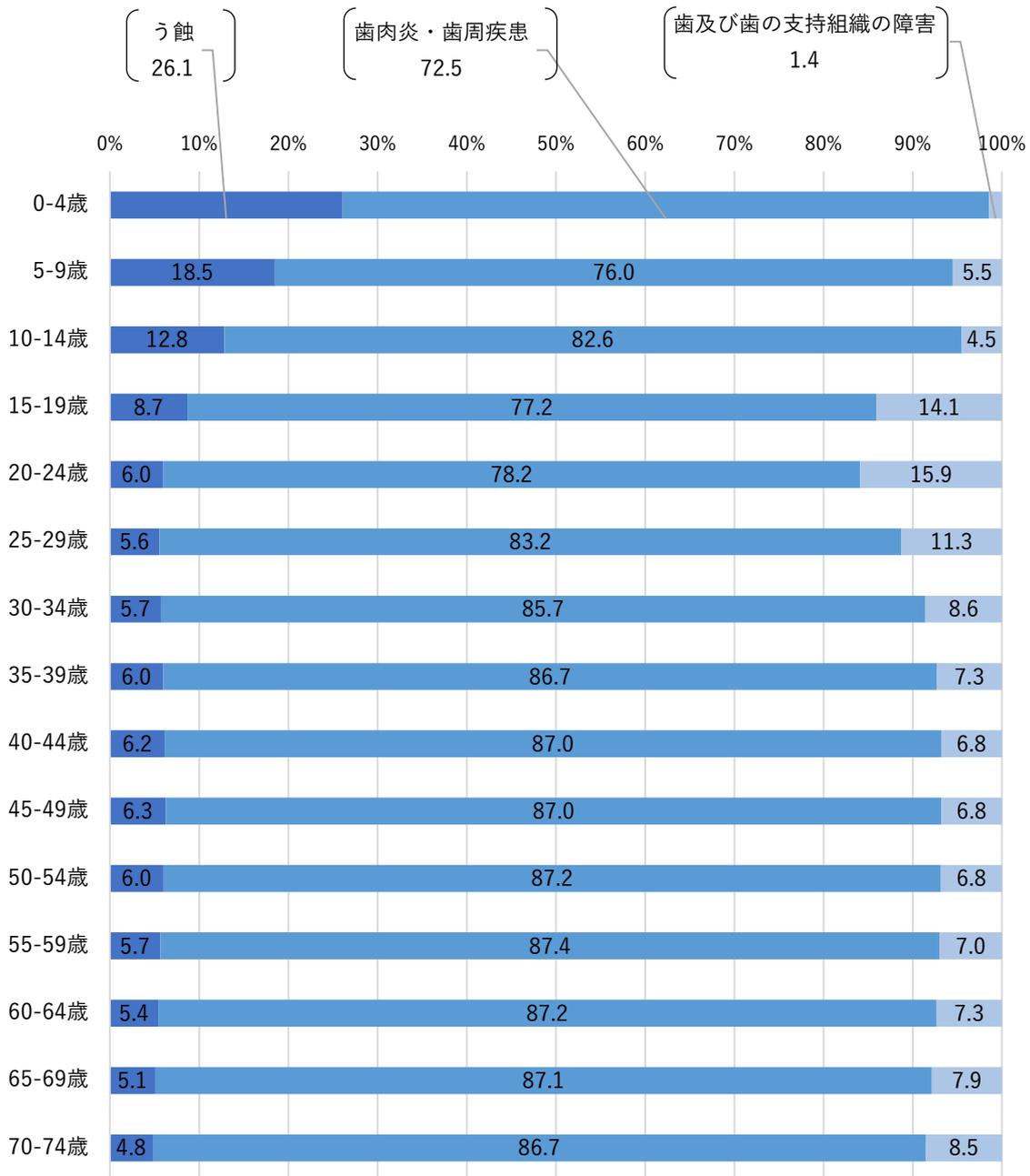
- 年齢層別に歯科3疾患計の加入者1人当たり医療費をみると、5-9歳、10-14歳で高く、15歳以降は年齢とともに高くなる。
- どの年齢階層でも歯肉炎・歯周疾患の割合が7割以上を占め（p17）、う蝕の割合は0-14歳で高く、年齢とともに低くなる。歯及び歯の支持組織の割合は15-29歳でとくに高く、参考としてその要因を「社会医療行為別統計（令和5年6月審査分）」（厚生労働省）の「歯科」診療行為別点数を年齢階層別（p18）でみると、15-39歳で「歯科矯正」の割合が最も高いことがわかる。

令和5年度 歯科3疾患 年齢階層別 加入者1人当たり医療費（円）

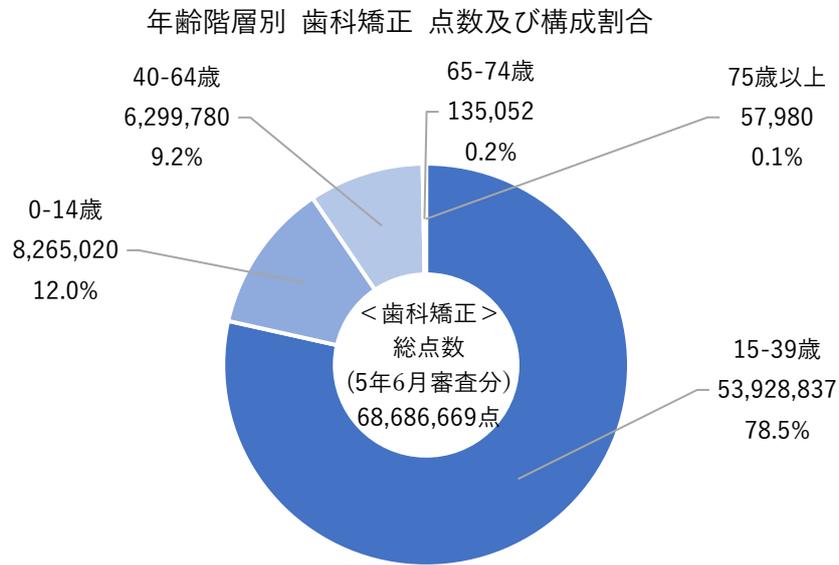


【参考】

令和5年度 歯科3疾患 年齢階層別 医療費構成割合(%)



【参考】社会医療診療行為別統計（令和5年6月審査分）：



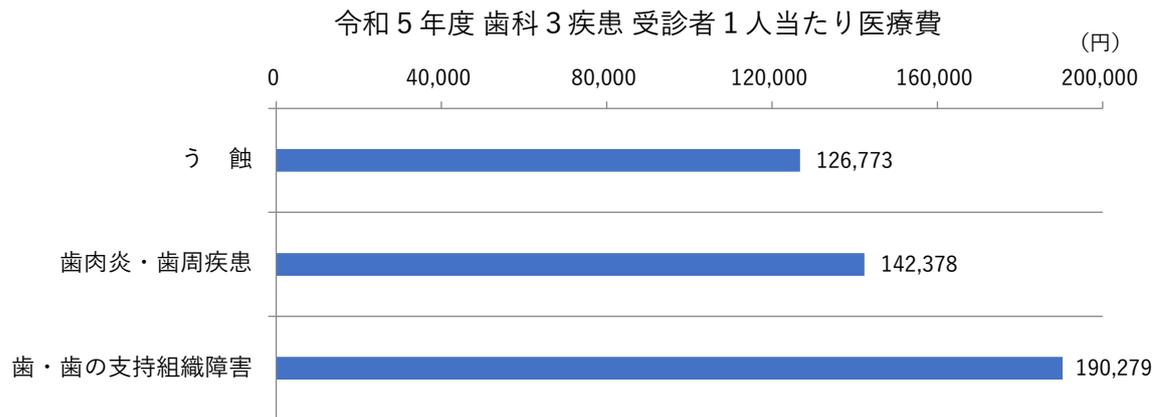
年齢階層別「歯科」診療行為別点数（令和5年6月審査分）

	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上
総数	1,978,950,319	4,210,425,647	8,839,478,442	4,492,691,714	5,861,129,655
初・再診	395,280,114	575,308,294	1,085,093,800	513,878,768	574,039,670
医学管理等	502,692,368	592,595,180	1,295,441,981	664,483,081	712,526,484
在宅医療	3,356,097	16,885,063	59,102,955	70,414,966	706,577,181
検査	119,415,686	394,311,655	769,462,888	325,626,648	314,489,512
画像診断	76,731,100	306,273,671	416,887,050	153,537,830	151,144,411
投薬	9,283,646	45,126,531	87,904,272	46,339,047	56,268,841
注射	253,048	2,741,522	7,766,485	7,112,397	10,476,955
リハビリテーション	1,704,397	2,150,121	46,301,037	91,324,343	196,512,253
処置	476,386,492	894,637,138	1,920,747,605	855,294,093	899,109,799
手術	37,231,558	184,078,446	200,578,831	102,947,733	125,051,952
麻酔	11,770,414	39,487,143	31,752,082	9,839,409	10,893,503
放射線治療	-	121,010	1,015,608	1,009,000	1,541,272
歯冠修復及び欠損補綴	325,520,139	1,037,272,703	2,854,514,639	1,620,466,385	2,048,455,977
歯科矯正	8,265,020	53,928,837	6,299,780	135,052	57,980
病理診断	496,620	2,683,425	7,450,475	3,992,725	5,087,675
入院料等	10,558,944	62,789,197	49,125,148	26,284,156	48,889,614

資料：厚生労働省「令和5年社会医療診療行為別統計」、統計表「第13：歯科の診療行為別点数、一般医療-後期医療・年齢階級別」をもとに作成。

【参考】受診者1人当たり医療費

- 歯及び歯の支持組織の障害が19万279円と最も高く、次いで、歯肉炎・歯周疾患：14万2,378円、う蝕：12万6,773円。



令和5年度 受診者1人当たり医療費

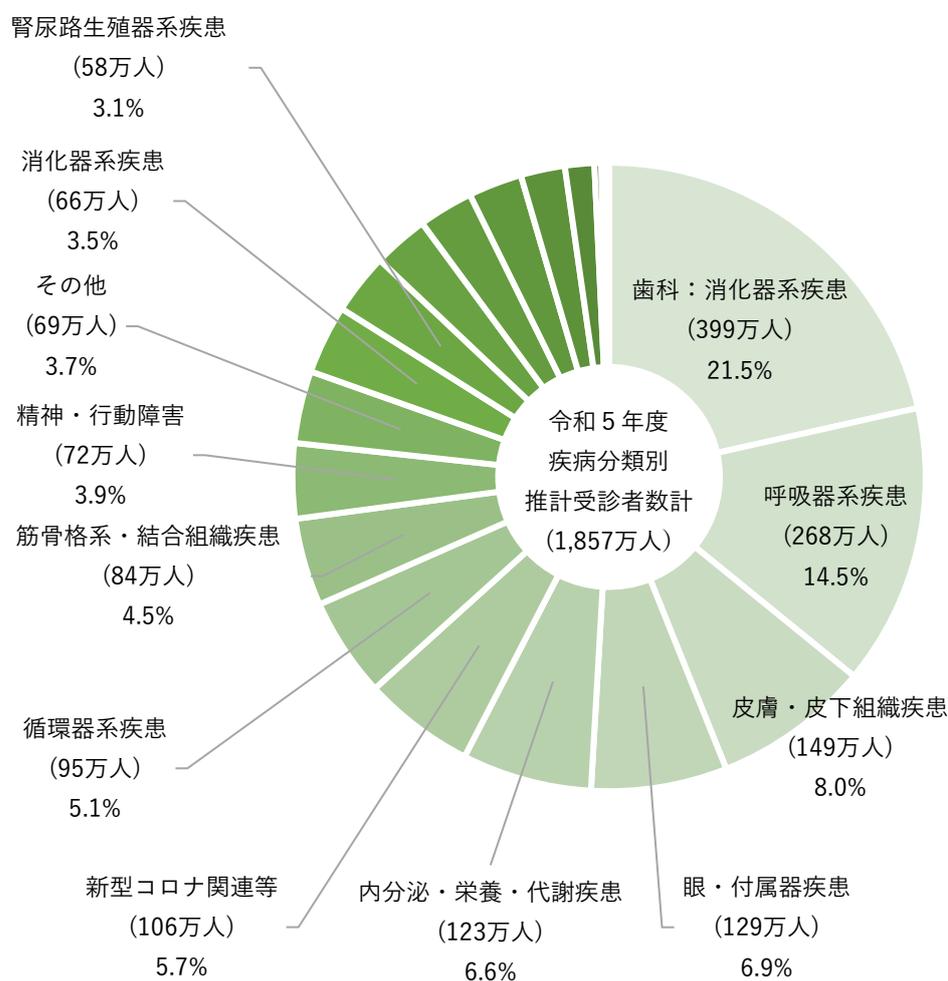
	受診者1人当たり 医療費(円)	加入者1,000人当たり 受診者数(人)	加入者1人当たり 医療費(円)
う蝕	126,773	12.7	1,608
歯肉炎・歯周疾患	142,378	125.1	17,807
歯及び歯の支持組織の障害	190,279	8.6	1,631

3. 疾病 19 分類別にみた「歯科：消化器系疾患」の受診状況

(1) 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

- 疾病分類別推計受診者数（医科・歯科²計）の構成割合をみると、「歯科：消化器系疾患」は 21.5%（399 万人）と最も大きく、次いで、呼吸器系疾患：14.5%（268 万人）、皮膚・皮下組織疾患：8.0%（149 万人） — となっている。

令和 5 年度 疾病分類別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

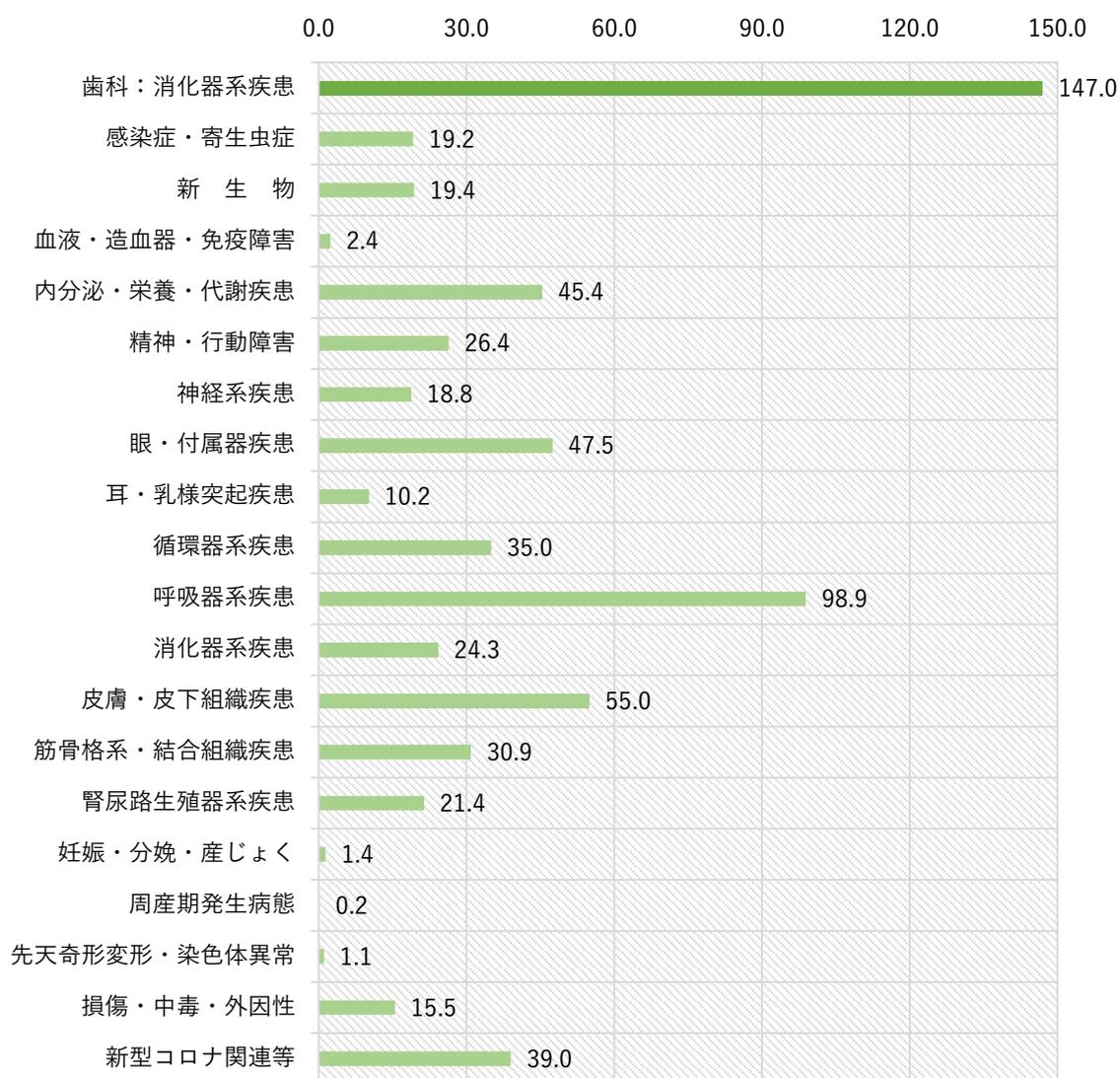


² 本調査における文中及び表中の「歯科」は、＜歯科＞の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」を指している（詳細は p.2 「本調査における留意点及び用語の定義」 1.を参照）。

(2) 加入者 1,000 人当たり受診者数 (年度平均)

- 疾病 19 分類 (医科・歯科) 計でみると、「歯科：消化器系疾患」が 147.0 人と最も多く、次いで、呼吸器系疾患：98.9 人、皮膚・皮下組織疾患：55.0 人となっている。

令和 5 年度 疾病分類別 加入者1,000人当たり受診者数



令和5年度 推計受診者数（年度平均・構成割合）及び加入者1,000人当たり受診者数

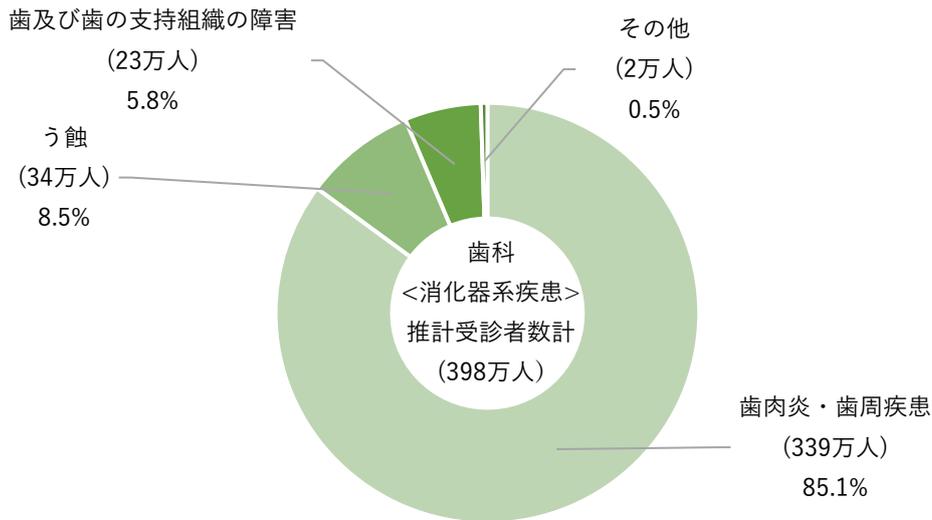
	推計受診者数		加入者1,000人当たり
	(年度平均) (人)	構成割合 (%)	受診者数 (人)
歯科：消化器系疾患	3,987,563	21.5	147.0
感染症・寄生虫症	520,200	2.8	19.2
新生物	526,277	2.8	19.4
血液・造血器・免疫障害	65,671	0.4	2.4
内分泌・栄養・代謝疾患	1,230,883	6.6	45.4
精神・行動障害	717,476	3.9	26.4
神経系疾患	510,155	2.7	18.8
眼・付属器疾患	1,289,654	6.9	47.5
耳・乳様突起疾患	277,844	1.5	10.2
循環器系疾患	949,662	5.1	35.0
呼吸器系疾患	2,683,681	14.5	98.9
消化器系疾患	658,409	3.5	24.3
皮膚・皮下組織疾患	1,492,607	8.0	55.0
筋骨格系・結合組織疾患	837,471	4.5	30.9
腎尿路生殖器系疾患	580,120	3.1	21.4
妊娠・分娩・産じょく	38,094	0.2	1.4
周産期発生病態	4,518	0.0	0.2
先天奇形変形・染色体異常	28,948	0.2	1.1
損傷・中毒・外因性	419,596	2.3	15.5
新型コロナウイルス関連等	1,059,232	5.7	39.0
計	18,568,724	100.0	684.4

4. 歯科3疾患（う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害）の受診状況

(1) 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

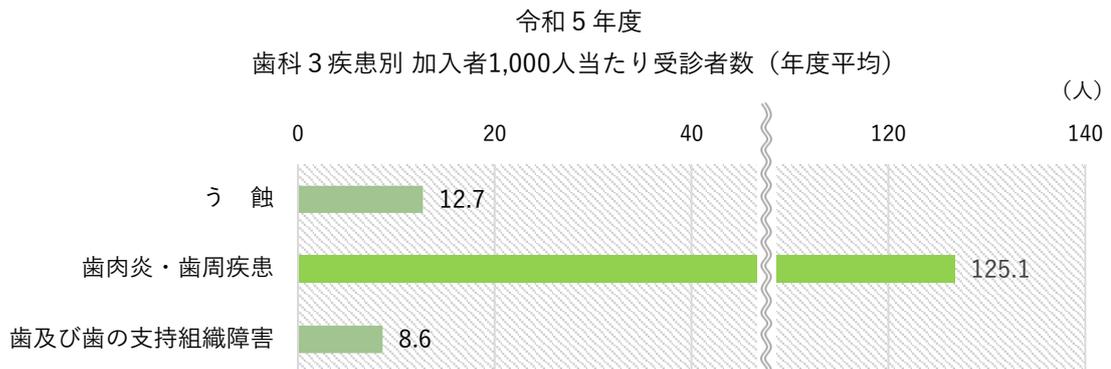
- 「歯科：消化器系疾患」の疾患別推計受診者数の構成割合をみると、歯肉炎・歯周疾患が85.1%（339万人）と最も高く、次いで、う蝕：8.5%（34万人）、歯及び歯の支持組織の障害：5.8%（23万人） —となっている。

令和5年度 歯科：消化器系疾患別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合



(2) 加入者1,000人当たり受診者数（年度平均）

- 歯肉炎・歯周疾患が125.1人と最も多く、次いで、う蝕：12.7人、歯及び歯の支持組織の障害：8.6人。



推計受診者数及び加入者1,000人当たり受診者数

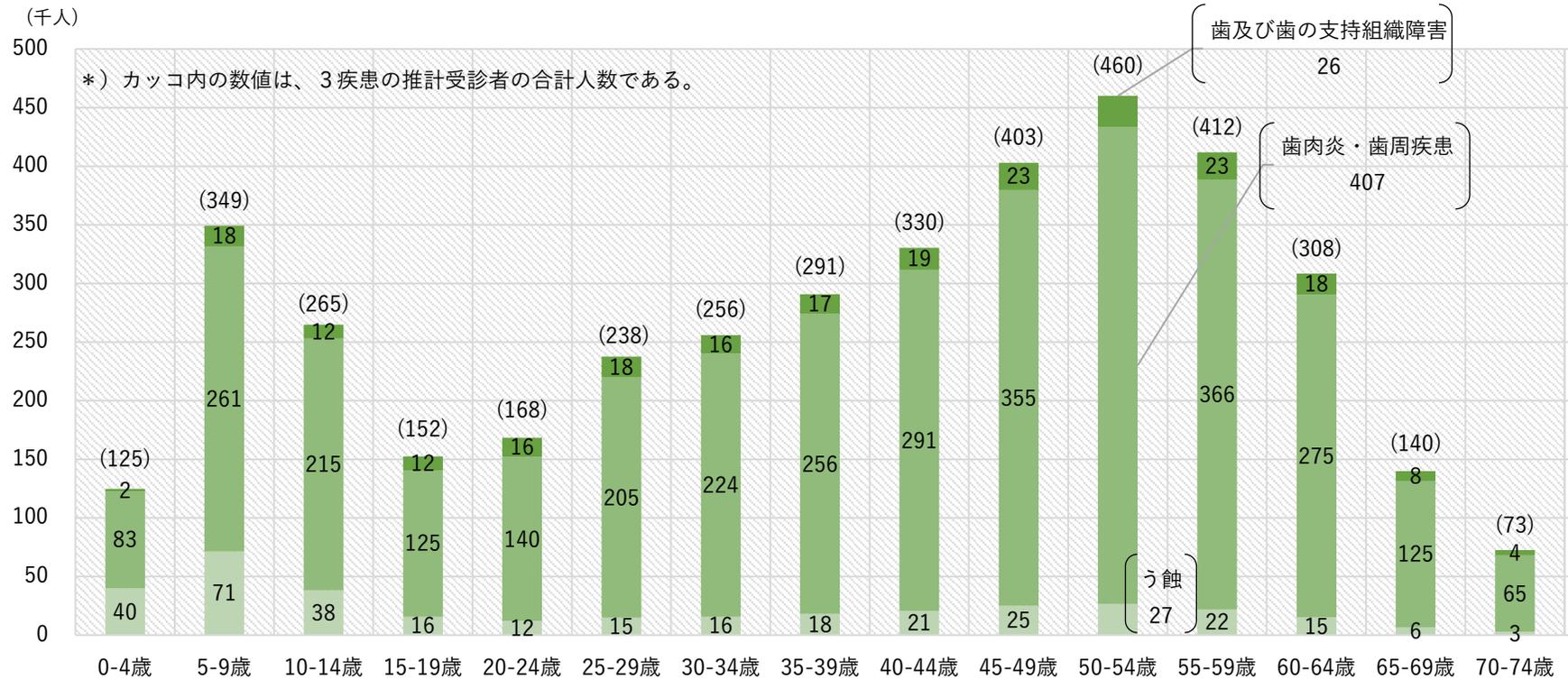
	推計受診者数（年度平均） （人）	加入者1,000人当たり 受診者数（人）
う蝕	344,155	12.7
歯肉炎・歯周疾患	3,393,255	125.1
歯及び歯の支持組織の障害	232,589	8.6

(3) 年齢階層別にみた推計受診者数

1) 推計受診者数 (年度平均)

- 年齢階層別に歯科3疾患計の推計受診者数をみると、50-54歳(45万9,999人)が最も多く、次いで、55-59歳(41万1,855人)、45-49歳(40万3,001人)となっている。
- 総数が最も多い50-54歳の3疾患別推計受診者数をみると、歯肉炎・歯周疾患(40万6,924人)が最も多く、次いで、う蝕(2万6,599人)、歯及び歯の支持組織の障害(2万6,476人)となっている。

令和5年度 歯科3疾患 年齢階層別 推計受診者数 (年度平均：千人)



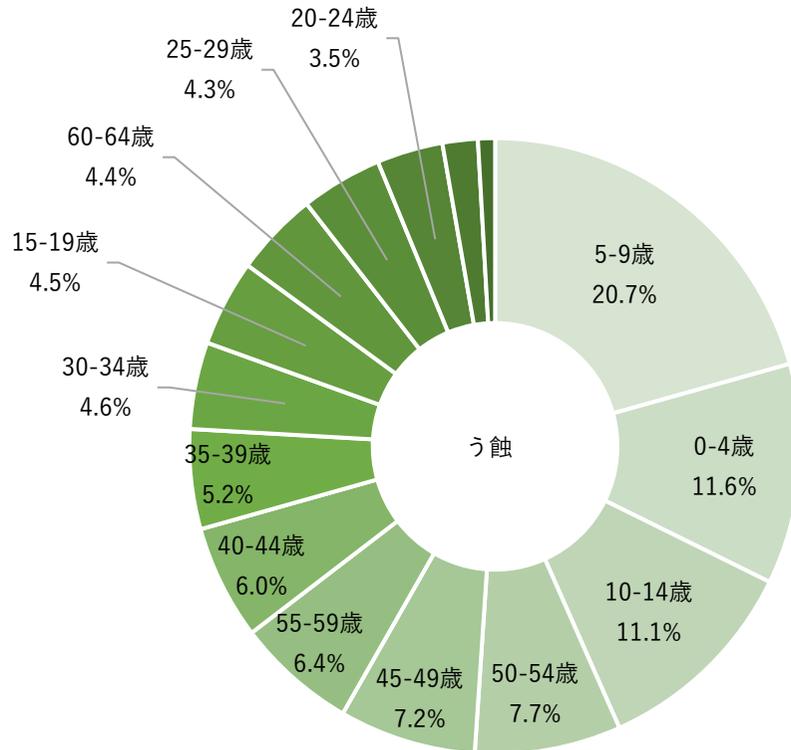
2) 3疾患別にみた年齢階層別推計受診者数の構成割合

① う蝕

- 推計受診者数（年度平均）を年齢階層別にみると、5-9歳が20.7%（7万1,187人）と最も高く、次いで、0-4歳：11.6%（3万9,812人）、10-14歳：11.1%（3万8,139人）一となっており、乳幼児及び未就学児（0-14歳）が全体の43.3%を占める。

令和5年度 年齢階層別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

【う蝕】



	推計受診者数（人）	構成割合（%）
0-4歳	186,968,750	0.4
5-9歳	2,171,683,560	4.9
10-14歳	1,377,553,470	3.1
15-19歳	3,059,186,070	6.9
20-24歳	4,266,484,360	9.6
25-29歳	4,148,673,720	9.4
30-34歳	3,314,629,870	7.5
35-39歳	3,145,903,510	7.1
40-44歳	3,342,072,470	7.6
45-49歳	4,097,776,310	9.3
50-54歳	4,742,428,070	10.7
55-59歳	4,341,030,700	9.8
60-64歳	3,425,546,660	7.7
65-69歳	1,673,514,510	3.8
70-74歳	956,964,980	2.2
計	44,250,417,010	100.0

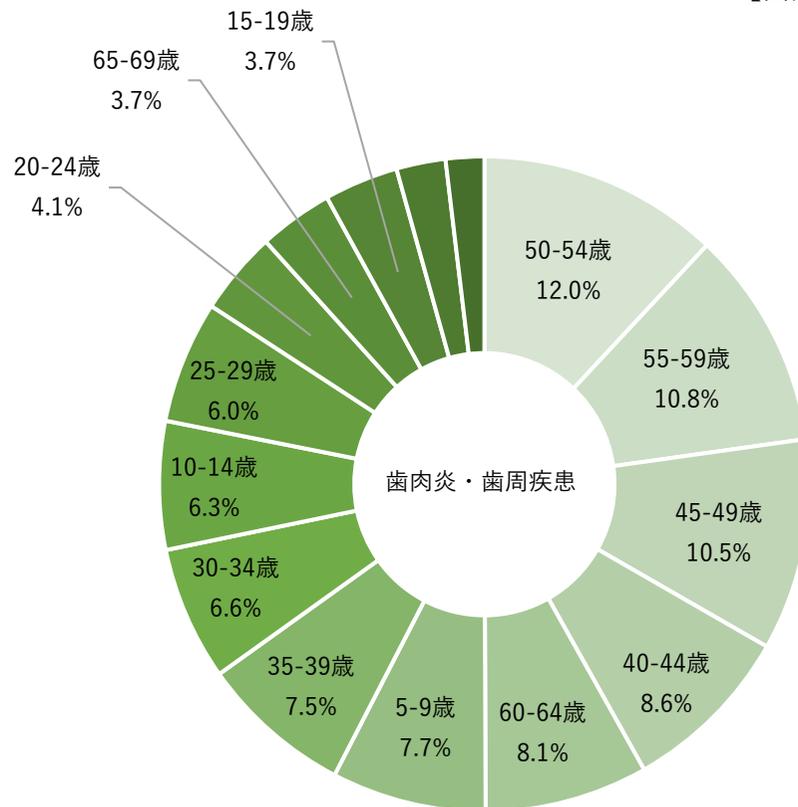
*）年齢階層ごとに推計受診者数（年度平均）を算出しているため、合計が一致しない（以下、同じ）。

② 歯肉炎・¥歯周疾患

- 推計受診者数（年度平均）を年齢階層別にみると、50-54歳が12.0%（40万6,924人）と最も高く、次いで、55-59歳：10.8%（36万6,489人）、45-49歳：10.5%（35万4,753人）—となっており、40～50歳台で全体の4割以上を占める。

令和5年度 年齢階層別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

【歯肉炎・歯周疾患】

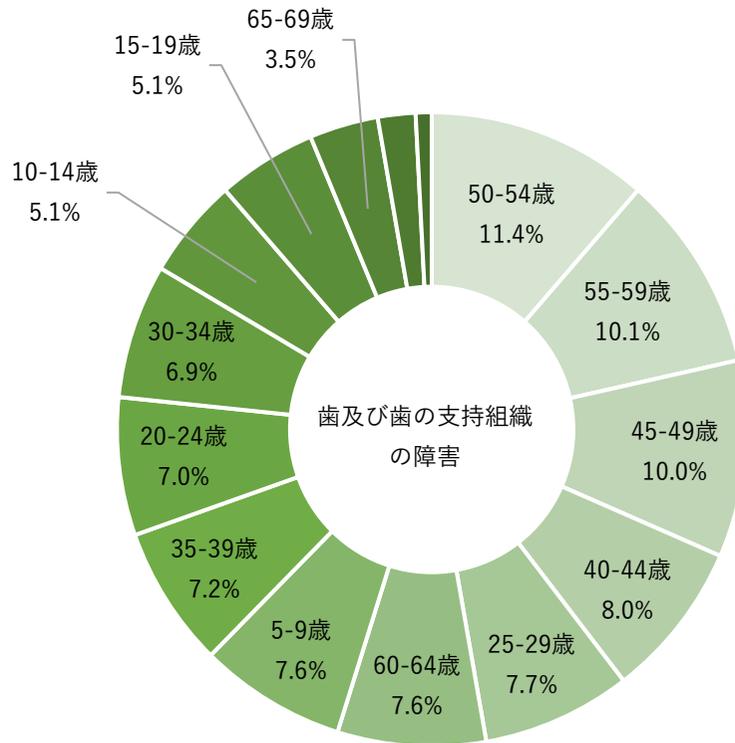


	推計受診者数 (人)	構成割合 (%)
0-4歳	82,949	2.4
5-9歳	260,553	7.7
10-14歳	214,724	6.3
15-19歳	125,024	3.7
20-24歳	139,874	4.1
25-29歳	204,898	6.0
30-34歳	224,329	6.6
35-39歳	256,025	7.5
40-44歳	290,955	8.6
45-49歳	354,753	10.5
50-54歳	406,924	12.0
55-59歳	366,489	10.8
60-64歳	275,296	8.1
65-69歳	125,106	3.7
70-74歳	64,916	1.9
計	3,392,813	100.0

③ 歯及び歯の支持組織の障害

- 推計受診者数（年度平均）を年齢階層別にみると、50-54歳が11.4%（2万6,476人）と最も高く、次いで、55-59歳：10.1%（2万3,494人）、45-49歳：10.0%（2万3,353人）一となっており、40～50歳台で全体の約4割を占める。

令和5年度 年齢階層別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合
【歯及び歯の支持組織の障害】

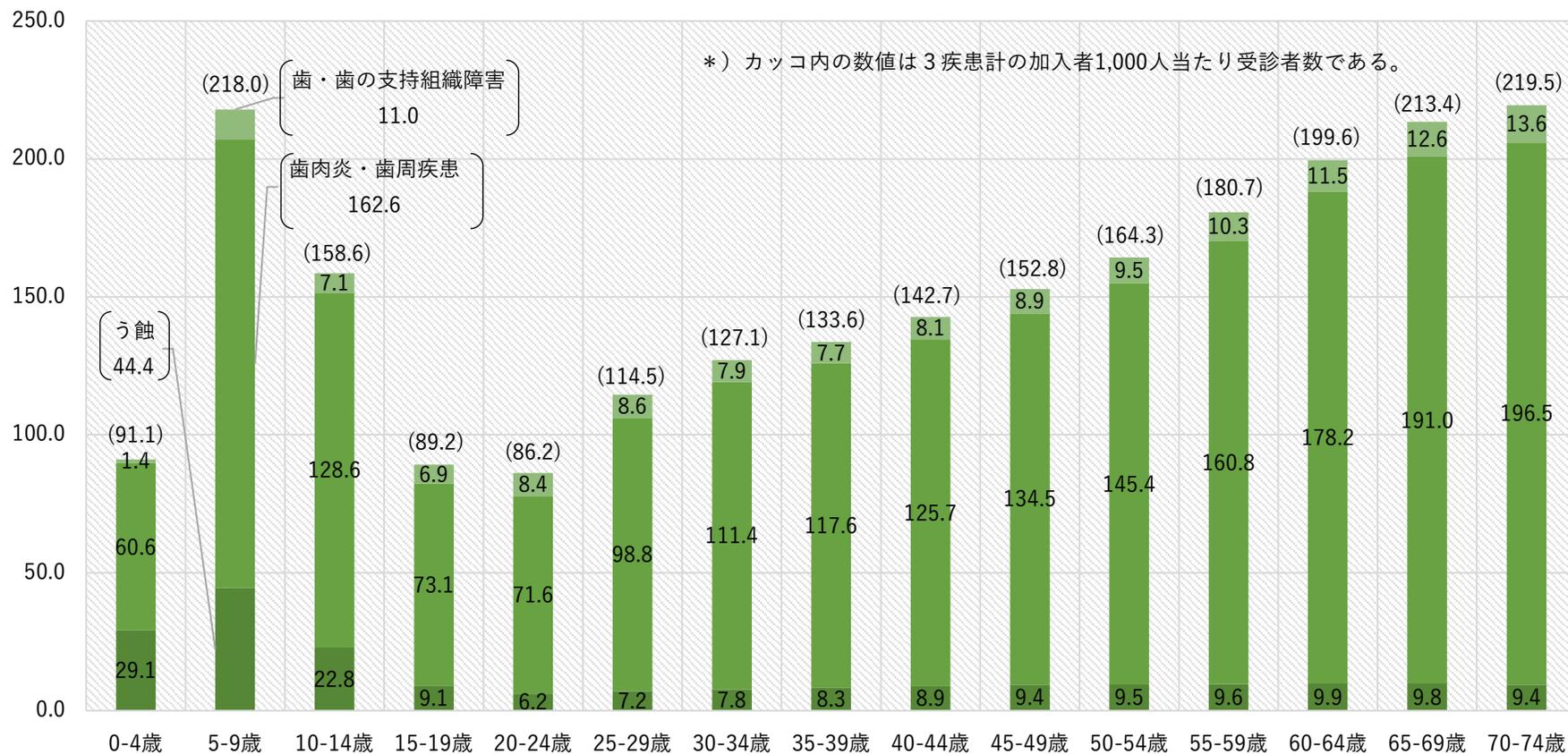


	推計受診者数 (人)	構成割合 (%)
0-4歳	1,902	0.8
5-9歳	17,559	7.6
10-14歳	11,910	5.1
15-19歳	11,862	5.1
20-24歳	16,362	7.0
25-29歳	17,807	7.7
30-34歳	15,938	6.9
35-39歳	16,769	7.2
40-44歳	18,682	8.0
45-49歳	23,353	10.0
50-54歳	26,476	11.4
55-59歳	23,494	10.1
60-64歳	17,715	7.6
65-69歳	8,224	3.5
70-74歳	4,498	1.9
計	232,551	100.0

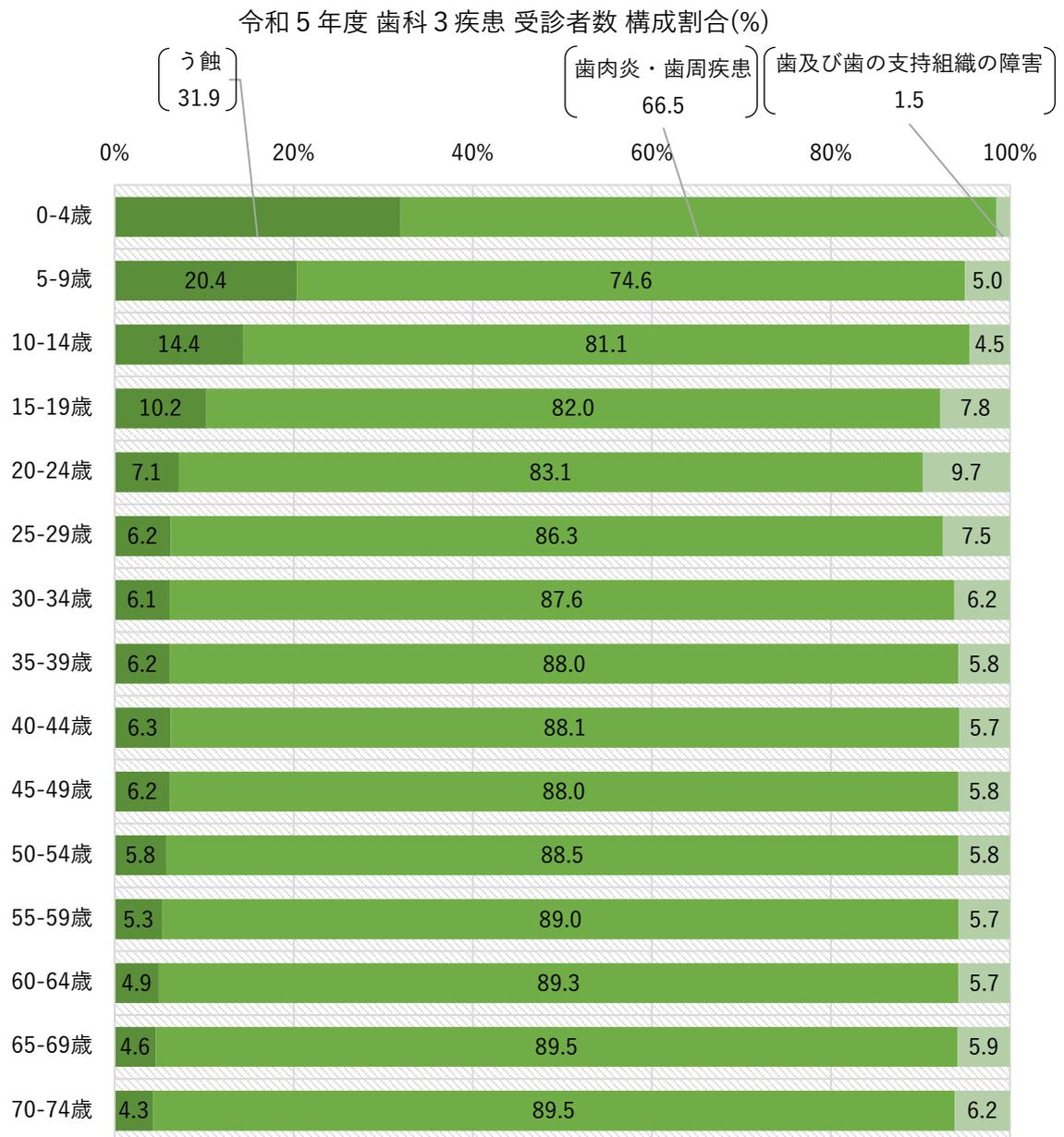
(4) 加入者 1,000 人当たり受診者数 (年度平均)

- 歯科 3 疾患計の加入者 1,000 人当たり受診者数を年齢階層別にみると、5-9 歳が最も多く、20 歳以降は年齢とともに多くなる。
- また、どの年齢階層においても歯肉炎及び歯周疾患の割合が 7 割以上を占め (p.29 【参考】)、う蝕の割合は 0-9 歳でとくに高く、年齢とともに低くなり、歯及び歯の支持組織の割合は 20-24 歳の 9.7% と最も高い。

令和 5 年度 歯科 3 疾患 年齢階層別 加入者 1,000 人当たり受診者数 (人)

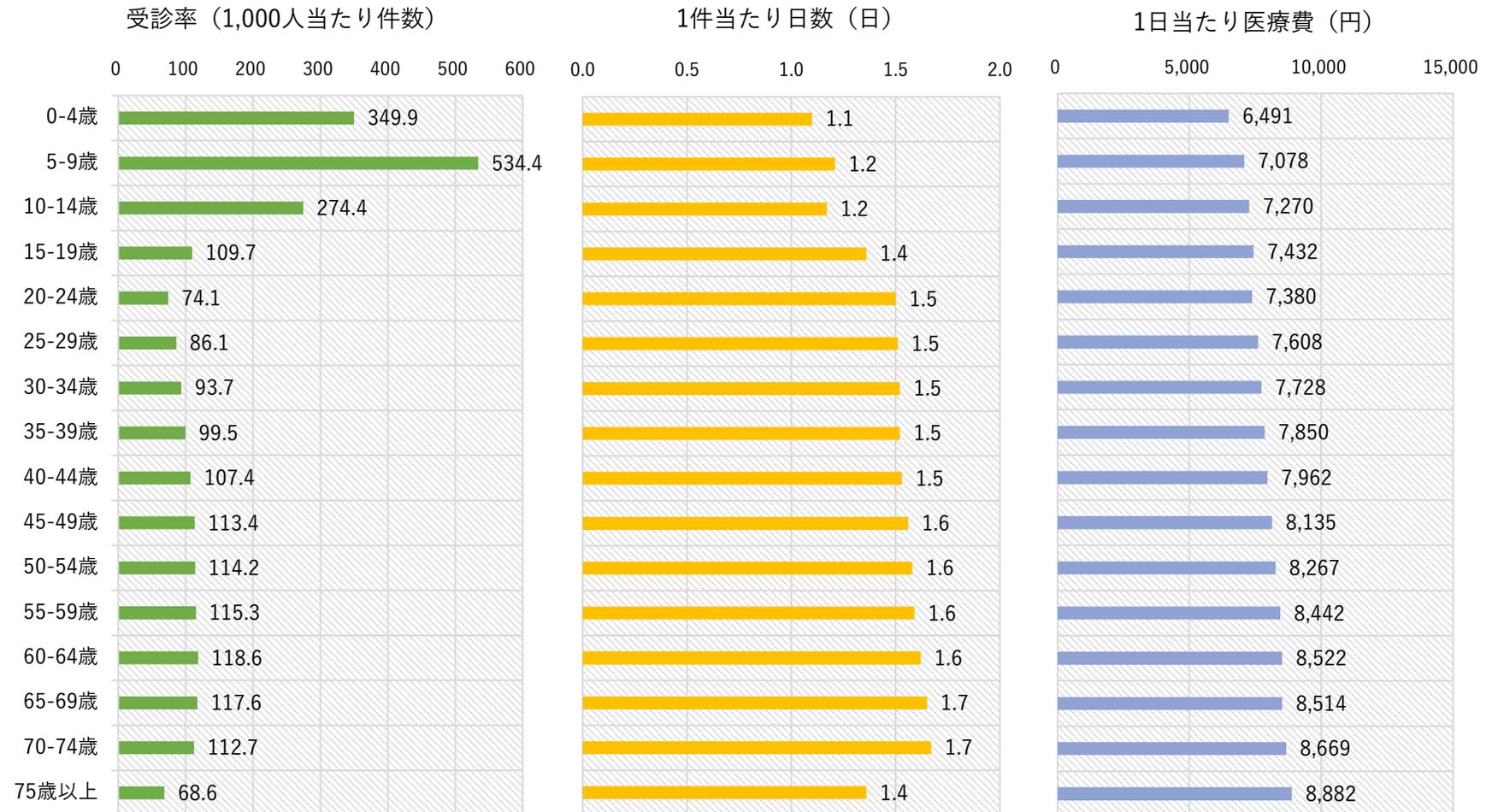


【参考】

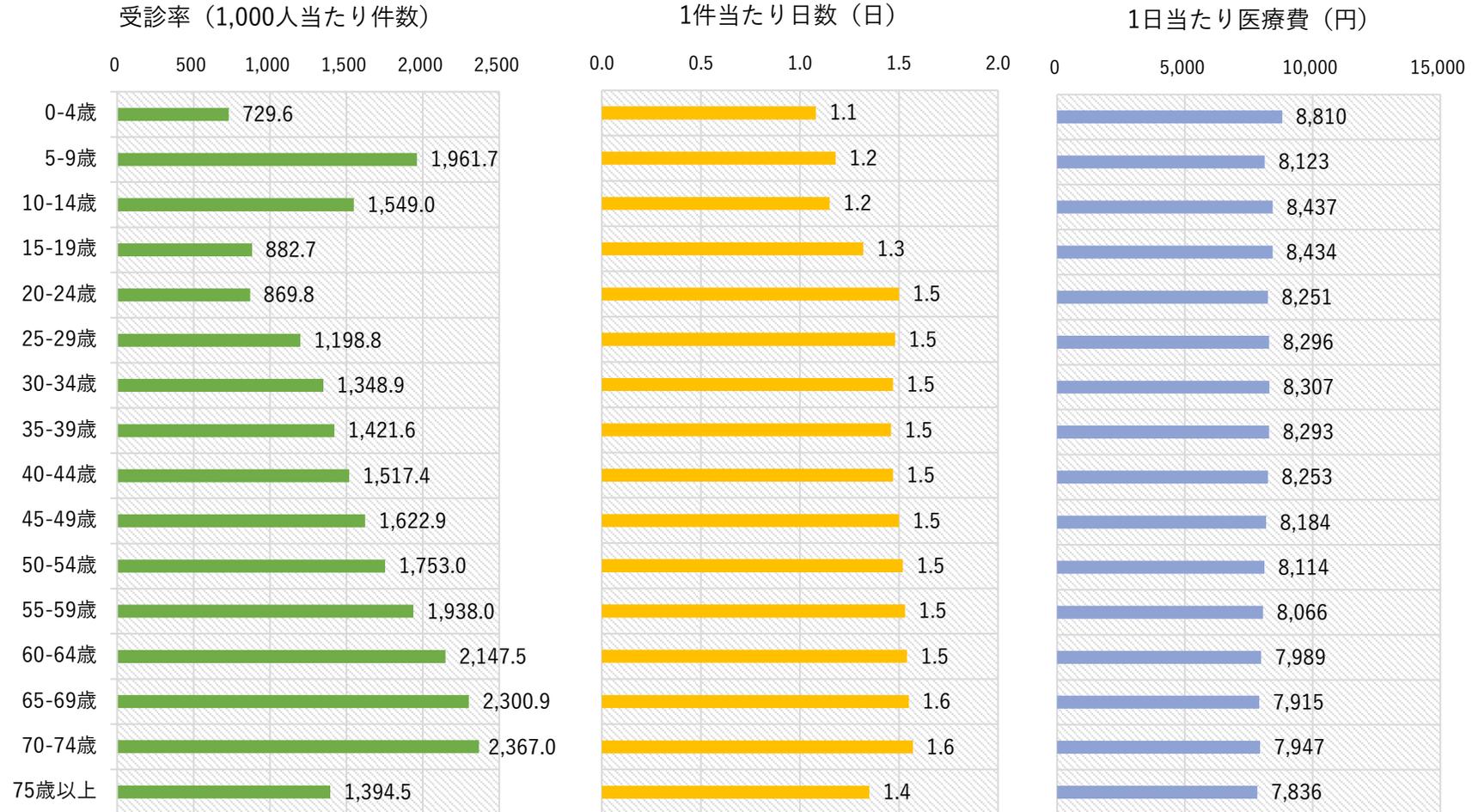


【参考】 歯科 3 疾患別にみた医療費 3 要素分解

【う蝕】



【歯肉炎・歯周疾患】



【歯及び歯の支持組織の障害】

